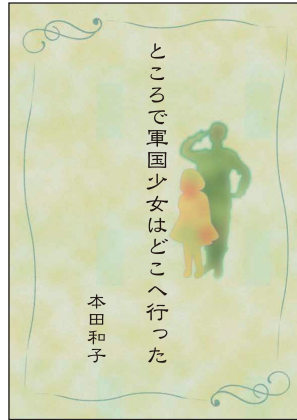


4月1日発売

新刊

少女をしつかりと
方向づけたかに見えた
「皇国の道」、そして
「軍国少女」としての
生き方は、
一体、どこへ……



元お茶の水女子大学初代女性学長
本田和子
Honda Masuko

ところで

軍国少女はどこへ行った

定価 (本体 1200 円+税) / A 5 判 / 184 頁
ISBN978-4-903355-83-2

第一部 戦時下の学校教育
「日本国史」の教育力/私たちの万葉集/子どもたちの「唱歌教育」
第二部 戦時歌謡と子ども
歌の力・歌詞のイメージ/子どもの戦争体験/私という子どもの戦時観
第三部 軍国少女はどこへ行ったか
私の戦後体験

戦争がはじまったとき、少女は小学校低学年だった。工場動員は免れたが、その代わり校庭に薩摩芋を植えたり、人手不足の農家に農作業の手伝いに行かされたりした。その頃歌われた『学徒動員の歌』、すなわち、「君は鋤取れ、我は鎧、戦う道に二つなし」という戦時歌謡さながらであった。こんな歌に励まされ、お米や野菜を作ることは重要だと思っていたから、とにかく真面目に働いた。何しろ、この戦いは正しく、神州は不滅であると教え込まれていたから、どんなに敗け戦が続いても、日本が敗けるなどとは考えもしなかったのである。

こうした「戦争観」の中で、少女たちは「少国民」となり、「軍国少女」へと成長した。こうした「日本観」は、「皇国史観」に基づく「日本国史」の授業で、しっかりと形成されていた。それに、勇壮で覚えやすい戦時歌謡は、少女たちの心を揺さぶり、「正義のための聖なる戦い」を疑うこともなかったのである。

今、大人になった少女が「日本国史」と「戦時歌謡」を取り上げて、自分自身を語ってみようと考えたのは、こうした所に他ならない。そしてこのことは、「私」という一人の子どもの物語でありつつも、あの時代を生きた同世代の女たちにとっても、共有される物語に他ならない。



書店名 (番線印)	ご注文数	ほんだ ますこ 本田和子 新刊 発行/ななみ書房/ (地方小扱)
	冊	ところで軍国少女はどこへ行った ISBN978-4-903355-83-2 C3000 定価 (本体 1200 円+税)
ご担当者様		

ご注文は 長渡 (ながと) まで

FAX / 042-746-4979